



だてなりケン

みやぎの明治村 とよま資料館だより

登米市歴史資料館・高倉勝子美術館
発行/㈱とよま振興公社
〒987-0702
宮城県登米市登米町寺池桜小路2-1
Tel: 0220-52-5566
Fax: 0220-52-2630



発行日 令和8年7月1日

《 登米懐古館編 》 第20号



写真1 旧登米懐古館

旧登米懐古館

写真1は昭和36年(1961)、寺池城址の一角に渡辺政人氏に建築までお願いをし、完成後に旧登米町へ寄贈していただいた初代の登米懐古館の写真です。

旧登米懐古館は博物館等類似施設に分類されますが、宮城県内では博物館等類似施設を含めて、仙台市博物館に次いで二番目に建設された歴史ある施設です。

懐古館建設のきっかけ

昭和28年(1953)秋、登米町開府350年祭の式典が行われ、その行事の一つとして、登米町文化財展示会が催されました。町内の方々からも、刀剣類、鉄砲、甲冑、陣羽織、馬具、旗、采配、弓、弓立、書画や什器類など339点の展示品があったと記録されています。

政人氏古希を迎えて

政人氏は明治25年(1892)、登米町日根牛に生まれましたので、「登米町文化財展示会」が開催された昭和28年には61歳でした。この頃政人氏は、日本鋼管継手株式会社取締役会長職に就いていました。

昭和28年の「登米町文化財展示会」で町民の方々から339点もの展示協力があつたことから、貴重な文化財を個人の方が所蔵・保管していたのでは、火災や盗難の恐れが心配されましたので、博物館のような建物が欲しいと町民の方々から要望が出されていました。

図らずも、このような時期に政人氏が古希を迎え、登米町に対し「報恩感謝の念を表したい」ということで、政人氏が蒐集してきた郷土にゆかりのある財産等111点を町へ寄贈していただくことになりましたが、当時の登米町の財政は大変厳しい状況にあり、博物館等類似施設を新設する財源の見通しを立てることができませんでした。

こうした状況から、建物の建築も政人氏にお願いすることになり、登米町は寺池城址の一角三の丸跡地を懐古館敷地の土地として提供しました。昭和36年(1961)3月地鎮祭を行い、同年10月15日落成開館しました。

懐古館の移築気運

旧懐古館は建築から60数年も経って経年劣化していることや小高いところに設置されていたことから、足腰の弱い方は中々足を運びづらい状況にありましたので、移築の機運が高まっていました。

関係者の協力の下に、春蘭亭隣接地の土地を取得することができましたので、隈研吾建築都市設計事務所に設計・施工監理を委託して、令和元年(2019)9月、新懐古館がオープンしました。



写真2 渡邊政人氏銅像
(新懐古館敷地内に移設)

